

# なし管理情報 No.2

令和5年3月20日  
下野方梨組合  
魚津市農業協同組合  
富山県新川農林振興センター



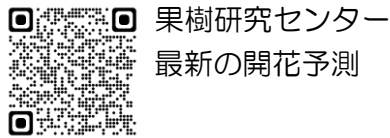
## 1. 開花予測

- ・開花始めは「豊水」が4/7～8、「幸水」が4/11で、連日の高温影響で早まっている。
- ・新潟気象台発表の2週間気温予報（3/17発表）では3/28まで平年に比べなかり高いと見込まれ開花時期は早まる可能性がある。

【果樹研究センター開花予測（R5.3.15現在）】

年次	豊水	幸水
	開花始	開花始
R5 (予測)	4/7～8	4/11
R4	4/11	4/12
平年	4/14	4/17

※ R4年、平年は果樹研究センター実測値



果樹研究センター  
最新の開花予測



気象庁  
2週間気温予報  
(富山県)



気象庁  
1ヶ月予報  
(富山県)

## 2 病害虫防除

### (1) 今後の防除

開花前後が黒星病の重要防除時期である。下記の時期を目安に、天候、生育状況に合わせて、遅れないように防除を実施する（なしの生育ステージは最終ページを参照）。

回数	散布時期の目安	散布薬剤と希釈倍率	対象病害虫	10aあたり散布量	実施日(自己記入)
1	3/21～24頃 りんぼう 脱落直前	デランフロアブル 1,000倍 マイリノー 20,000倍	黒星病、黒斑病、赤星病、 心腐れ症(胴枯病菌)	300 l	
2	3/29～31頃 りんぼう 脱落期	トレノックスフロアブル 500倍 ダイアジノン水和剤34 1,000倍 マイリノー 20,000倍	黒星病、赤星病、黒斑病 ハマキムシ類 シンクイムシ類 アブラムシ類	300 l	
3	4/7～9頃 開花直前	オンリーワンフロアブル 4,000倍 ベルコートフロアブル 1,500倍 マイリノー 20,000倍	黒星病、赤星病 黒星病、黒斑病、輪紋病、 うどんこ病	300 l	
	4回目散布後 2日程度あけて	「二十世紀」に追加散布 ロブラル水和剤 1,000倍	黒斑病		

- ・農薬散布時は、近隣に告知するとともに、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください。
- ・また、使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用してください。

## (2)黒星病対策

### ①落葉処理の見直し

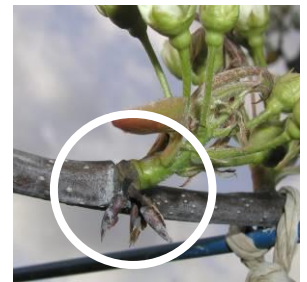
園地内に葉の形をとどめた落葉がみられる場合は、再度落葉処理を実施する。  
実施時期：本格的に子のう胞子の飛散が始まる前（3月中）に実施する。

### ②芽基部病斑の除去

芽基部病斑は、見つけ次第摘み取り、園外で処分する。  
実施時期：人工受粉前から注意し、見つけ次第除去する。

### ③園地周囲の補正散布

薬剤のかかりにくい園地外周を中心に補正散布を徹底する。



黒星病芽基部病斑  
(りんぼうが落ちない)

## 3 今後の管理 ①芽たたき

### <ポイント>

- ・「幸水」の大玉生産のために、短果枝の花芽整理と、短・長果枝の摘蕾(芽たたき)を実施し、貯蔵養分の消耗を極力抑える。

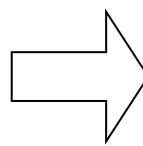
- ① 主枝、亜主枝の先端部（先端から 50cm 程度）は全て摘蕾する。
- ② 側枝の先端 2～3 芽は全て摘蕾する。
- ③ 予備枝に花芽が着生している場合、全て摘蕾する。
- ④ 着果させる花そうは、可能な範囲で出蕾期に芽たたきを行い 2～3 花減らす（写真 1）。
- ⑤ 子花を持った花そうは必ず子花部分を摘蕾する（写真 2）。



処理前



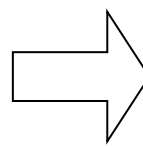
写真1 芽たたき



処理後



処理前



処理後

写真2 小花の摘蕾（葉は残す）

## 4 今後の管理 ②凍霜害対策

今年のように3月の気温が高く、開花が早まる可能性が高い年は、凍霜害が発生しやすいため、事前の下記対策により被害の軽減に備える。

- 雑草の草丈が長い場合は、短く刈り込む。
- 冷気の通りを妨げる防風ネットや障害物等を除去する。
- 開花直前又は開花中に被害を受けた場合は、残った健全花に人工授粉を徹底し、結実確保に努める。
- 事前に下記<sup>①</sup>の防霜資材を散布する。

商品名	使用時期	倍率	回数	10aあたり散布量	備考
アイスバリア	霜、低温の直前 芽出し10日後から	100~ 333倍	2~3回	300ℓ	• 植物に吸収させて耐寒性を高めるため、降霜の2~3日前に散布するのが良い。
霜ガード	開花3~4週間前 (蕾期~風船期)	50倍	2回	300ℓ	• 機械油を散布する場合は、先に機械油を散布 • 石灰硫黄合剤との混用は不可 • 暖かい空気を資材に抱き込ませるため午後3時頃までに散布する。
	開花期~幼果期	50~ 100倍	1回		

※両資材とも農薬との混用散布が可能。肥料として登録されているため、倍率、回数に制限はない。

<凍霜害が起こりやすい条件>

- 午後6時頃の気温が10℃以下でかつ1時間に1℃以上の気温の低下がみられる晴天無風状況。
- 開花直前から落果直後の幼果期にかけて、-1.8~-1.3℃の低温に1時間程度遭遇した場合。

<お知らせ①>

- 次号は、4月10日頃の発行を予定しています。

<問い合わせ先>JAうおづ 営農課 吉崎 24-9923